



活動する領域は限りなくある



つい最近、日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）「食・農業・産消連帯」全国推進会議から当法人の「農業と福祉」の連系と実践について話を聞きたいとの依頼を受け、池袋にある「日本労働連本部ビル」の一室で全国推進会議の皆さんと経験交流する機会がありました。資本を持たない労働者が「働く身体と能力を持ち寄って」協働で仕事を開発・受注しその収益を分配する・・・これが労働者協同組合の考え方です。

この運動は旧全日自労委員長で参議院議員であった共産党の中西五洲さんが作り育てた組織だったと思います。

たまたま今回は農業分野で地域と連帯し地産・地

消で生活基盤をどう造るかのグループでしたが、この協同組合の中には廃棄物処理を業とする分野、高齢者の介護を業とする分野、障害福祉の分野・・・など数多くの職種に組織をしているようです。

私が本稿で申し上げたいことは労働組合運動しかならず、職場を定年退職したら只の人になるのでは無く、様々の分野に社会運動の種は落ちていきます。様々な問題を抱える生活困窮者は満ち溢れています。新社会党に入党し党運動をするも良し、地域に根を張る・地域の人に頼られる何かを常日頃から意識した労働者生活を送り、多層・多重な社会運動家になることを勧めたいのです。

『月刊まなぶ』企画編集委員 石川

一郎（社会福祉法人月山福祉会 理事長）